

平成 23 年 12 月 1 日

お財布プロジェクト第 2 回実施報告

株式会社 危機管理教育研究所

全国の皆様

この度は、「東日本大震災」被災地への義援金をお寄せいただきまして誠にありがとうございました。これまでに多くの方々から浄財が寄せられ、お預かりいたしました義援金はすべて配布方法について被災地と議論を重ねた結果、時間はかかりましたが「震災遺児を支援するためのお財布プロジェクト義援金」として、陸前高田市の震災遺児にお届けして参りましたことを報告いたします。皆様からのご協力に心より感謝申し上げます。

プロジェクト名：

「被災地の子供支援がんばっぺ！お財布プロジェクト

By 危機管理教育研究所と仲間たち」

実施日：

平成 23 年 11 月 23 日(日) 9 時～12 時 陸前高田市役所 西側駐車場（下側）

平成 23 年 11 月 23 日(日) 13 時～16 時 モビリア センターハウス

概要：危機管理教育研究所の HP で募集し全国の皆様から集まったお財布と義援金（2 千円）を震災で保護者を失われた子供たちが、「辛さにくじけずに明日を踏み出せるように」との願いをこめて届けて参りました。今回は陸前高田市に住まわっていて、お父さんお母さんを亡くした子どもに 2000 円札入りのお財布を贈呈しました。また、同時にたい焼きやトン汁、支援物資の無料配布をしました。

スタッフ人数：

11 月 23 日 17 名（女性 3 名、男性 14 名）

お届け数：

11 月 23 日 26 個（金額 52,000 円）

《11 月 23 日午前の様子》

陸前高田市役所の駐車場内でのイベントとなりましたが、本格的なたい焼き機と幟が設置され、さながらお祭りの一角のような賑やかな風情となりました。

活動時間が 9～12 時ということで始め来訪者数が少ないという印象を受けましたが、10 時過ぎ頃から現地の広報紙によって今回のイベントを知った方たちが続々といらっしやい

ました。様々な財布がある中から 2,3 個を取りだし、最後にその中からお気に入りの一つを選ぶことに嬉しそうに迷われている様子が印象的でした。中には“お兄ちゃんにはこれ、妹にはこれ”と兄弟の分を選ぶ姿も見受けられました。お財布を選び終わった後は、同時に提供していた鉛筆等の文房具や歯ブラシ、カイロ、タオル等の日用品の支援物資の提供もさせて頂きました。

中には幟を見ていらした方もいらっしゃいました。そういった方々にもたい焼きやトン汁、支援物資等の無料配布のイベント開催時間の一時を楽しんで頂けたかと思います。



↑お財布を選ばれている様子

↓トン汁のサービス (すぺ〜す百貨の皆さん)



↓たい焼きのサービス (神奈川災害ボランティアステーションの鈴木さん)



《11月23日午後の様子》

午後は会場を陸前高田市の小友町にあるキャンプ場モビリアに移し、引き続きお財布プロジェクトを行いました。こちらは仮設住宅の集合する場所ということもあり広報が行き渡っており午前の活動と比べると非常に多くの方が来られました。たい焼き・トン汁も非常に盛況で、長い行列がお財布プロジェクトの間途切れることがない程でした。

午後は午前の文房具・日用品に加えて、ジャケット・寝袋を新たに配布いたしました。11月も終わるといこの時期に、まだまだ厳しい東北の冬を乗り切るのに十分な防寒具がないということでこのジャケット・寝袋の配布は非常に喜んでいただけました。

こちらでも様々な財布から一つを選ぶということでそれぞれの財布に熱いまなざしが向けられていました。通りがかりの人も含め、素晴らしい財布を前にやはり子供達よりも大人の方々の視線が熱いものとなっているように感じました。



↑ 支援物資を選ばれている様子 (左)



WASSEND (早稲田大学の学生) によるマッサージのサービスも (右) ↑

《終わりに》

お財布プロジェクトで並べていたお財布をご覧になった通りがかりの方々の中に、どれも質が非常によく全国の皆様のご厚意を感じる、といったことをおっしゃるのをよく耳にいたしました。このお財布プロジェクトは全国の皆様の温かいご支援なくしては行うことのできない活動です。改めてこのような素晴らしいお財布をお財布プロジェクトに寄贈してくださった全国の皆様へ厚く御礼申し上げます。今後もその都度実施のやり方を工夫し皆様のご厚意を東北各地に届けて参ります。引き続きご支援ご協力の程、宜しく願い致します。